

総合資源エネルギー調査会原子力小委員会（第2回，7月11日）での
CCNE見解の扱いをめぐるやりとりの概要

2014年7月11日
吉岡 斉

[7月10日午後]

吉岡委員配付資料として、「焚増しコストの評価についてのメモ」（内容的には基本計画全体にわたる）、「CCNE見解」を事務局に送ったところ、しばらくして担当課長（畠山氏）から携帯に電話があった。その趣旨は以下の通り。

前者については前回の発言の際に予告した「いちゃもん」なので配付するが、後者については2つの理由から配付資料にはできない。第1に、委員個人の文章ではなく複数人の文章である。第2に、当日の会議の議題とは関係ない。については入口のテーブルにコピーして積んでおくので、興味ある方は持ち帰るよう参加者に伝える、とのことだった。これは小委員長（安井氏）の判断であるとのことだった。

私の方は「当方として納得できないが、時間もないのでとりあえず明日の会議はそれでよい。しかし事実経過は公開させてもらう。」と述べ、電話を切った。

[7月11日 会議終了まで]

開始前に担当課長と打合せ、会議の末尾に聴衆に課長が「2つの理由で配付を認めなかった」と報告し、私がそれに付いてコメントする、との合意をとった（ように思った）。しかし末尾で課長が説明したのちに、小委員長が会議を終えようとした。そこで「今の説明には納得していない」と抗議して、2～3のやりとりを議場で小委員長と交わしたが、「あとは個人的に」と述べて小委員長が散会とした。

[7月12日 終了後の意見交換]

せっかくのお誘いなので、議長席の横に行き、小委員長と2人で「個人的」な意見交換を行った。担当課長が声が十分に聞こえる至近距離から心配そうに見ていた。

小委員長に拒否理由について再度確認したところ、上記2点が回答として帰って来た。そこで、以下のようにコメントした。

吉岡：

(1) この文章は8割方、私が書いたものであり、委員個人の意見でないというのは当たらない。委員をファーストオーサーとする共著も、配付資料として認めて当然である。

(2) 再稼働問題は今回の議題と密接な関係がある。「検討課題の整理（案）」の5ペー

ジには、3つの基本方針の2つ目として、「規制委員会が認めたものは再稼働する」との文章があるが、私はそれに同意しないので、その理由説明としてCCNE見解を、委員等の方々に読んで頂くのがよいと考えたし、それは今も変わらない。

それへの回答は、以下のようなものだった。

安井：

(1) については、駄目の一点張り。

(2) については、この委員会はエネルギー基本計画にもとづいて具体的方針を決めるためのもので、エネルギー基本計画の妥当性についての議論を蒸し返すのは時間の無駄だ。

(だから却下した。)

それに対する私のコメントは、以下の通り。

吉岡：

(1) について、私自身が再稼働問題について私単独の署名で文章を提出した場合、CCNE見解とほとんど同じものとなると思われるが、著者名だけ差し替えれば委員資料として認めるのか。

(2) 審議会というのは、上意下達の官僚組織とは異なり、多様な運営があつてよいはずである。上位計画(エネルギー基本計画)へのフィードバック機能があつてよいはずである。

それに対する小委員長のコメントは以下の通り。

安井：

(1) 認めるかどうかは当日の議題に相応しいかどうかであり、それは小委員長が(独断で)決めることである。

(2) あなたの考えはそうかもしれないが、私の考えは違う。(上意下達であるべきである。)委員たちに無駄な時間を使わせるわけにはいかない。

メインストーリーは以上のとおりだが、おもしろいやりとりもあった。

吉岡：「基本計画にもとづく基本方針の3番目に『原発依存度については可能な限り低減させる』とある。それを満たすエネルギーミックスとの整合をとるためにも、再稼働の基数を定める必要があり、それゆえに再稼働問題の検討が必要ではないか。それが議題と関係ないはずはない。」

安井：「エネルギーミックスはこの委員会では扱わない。」

吉岡：「あなたは化学者だから、エネルギーミックスの重要性を知らないのだ。それを扱わなければ、どのような原子力比率とも整合するような方針しか示せない。たとえば何年後かに原発をゼロにするというエネルギーミックスを立てるならば、人材養成の必要人数もゼロに近い数字となるだろう。」

(なお、エネルギーミックスに関する小委員会の設置が遅れそうだというニュアンスが、会議中での資源エネルギー庁長官(上田氏)の発言から、読み取れた。)

P. S.

議事を動画でリアルタイム配信せよという伴委員らの要請を、小委員長は「自由に発言できなくなる人がある」との理由をあげて、頑なに拒否していた。

以上